令和５年度　学校評価における自己評価結果

旭市立鶴巻小学校

1　学校教育目標

豊かな感性で支え合い、主体的に学び・活動する児童の育成

2　学校経営の理念・方針

○　持続可能な質の高い教育活動の実践
○　「ふるさと学習」を実践し、地域と一緒に歩む
○　「知・徳・体」のバランスの取れた教育活動
○　「笑顔」「安全・安心」「着実」を根付かせ実践

鶴巻小教育スローガン 3S

笑顔（Smile）安心安全（Safety）着実に（Steadily）

3　評価結果　　※ 評価Ａ（十分である）Ｂ（おおむね十分）Ｃ（不十分である）Ｄ（改善を要する）

※評価値　Ａ（Avr. ３．６以上）　Ｂ（Avr. ３．２～３．５）　Ｃ（Avr. ２．８～３．１）　Ｄ（Avr. ２．７以下）

分野・領域	評価項目	評価の指標《肯定的評価%》		評価値	改善の方策
学校経営 教育課程	保：学校は保護者や地域に対して学校経営方針を示している。	学校便りやＨＰで常時発信し、昨年度から４ポイント上がった。	《96%》	B (3.4)	「学校が楽しい」、「笑顔で過ごせた」「学校は活気がある」という児童、保護者が多く、それぞれの項目で高評価を得た。学校経営の要と位置付けた項目が高い評価を得ることができた。学校経営方針の周知は２年目となり高い評価につながった。 「ふるさと学習」については、今年度教育課程への位置付けを行い、少しずつではあるが実践してきた。来年度も尽力していく。
	保：学校は特色ある行事や体験活動を行っている。	新型コロナウイルス感染症が５類に変更され、可能な能な限り行事や教育活動を実践した結果、後期は６ポイント肯定的評価が上がった。	《94%》	B (3.4)	
	保：学校は明るく活気があり、子供が楽しく学校に通っている。	明るく・楽しい学校づくりを目指した結果、昨年度から肯定的評価が２ポイント上がった。評価値も０．１向上した。	《97%》	A (3.7)	
	児：１年間、笑顔で過ごすことができた。	昨年度同様とても評価が高く、児童の満足度が十分であった。	《93%》	A (3.6)	
	職：学校の経営方針・理念に沿って指導を実践する。	教職員全員が経営方針・理念を理解し、教育実践を進めている。	《100%》	A (3.7)	
	職：授業や各種教育活動に「ふるさと学習」を取り入れている。	旭市の教育の柱の一つである「ふるさと教育」が徐々に教職員に意識付けられてきた。来年度からスタートするCSで更なる向上を図る。	《79%》	B(3.3)	
学習指導	保：ＩＣＴ教育等、分かりやすい授業実践をしている。	タブレット端末の使用頻度が向上し家庭への持ち帰り恒常化た。分かりやすい授業への支持も得た。昨年度から肯定的評価が４Ｐ上昇した。	《95%》	B (3.3)	児童の「授業に集中した」、教職員の「目当てを明確にして授業を行った」「授業改善に取り組む」の評価が高く、年間を通じ学習指導が充実していたように考える。 来年度も「新しい学び」に向けての授業改善やＩＣＴ教育を推進していく。 一方で、児童の家庭学習（宿題・自由学習）の取組の数値が低下したので、家庭への協力を含め、課題を解決していきたい。
	保：子供は発達段階に応じた家庭学習をしている。	学校から積極的に働き掛けることで、昨年度から肯定的評価が３ポイント評価が上がった。	《89%》	B (3.4)	
	児：授業に集中して取り組む。	１年間を通して、授業に対し集中する姿が見られた。後期は、肯定的評価が５ポイント上昇した。	《93%》	B (3.5)	
	児：宿題や自由学習に進んで取り組む。	宿題や自由学習への取り組む意識の低下が見られた。今後も家庭での学習の重要性を児童に指導していく必要がある。	《77%》	C(3.1)	
	職：単元や時間ごとの目標（めあて）を明確にして授業を行っている。	教材研究をしっかり行い、授業実践しているので高い評価となった。	《100%》	A (3.7)	
	職：主体的・対話的で深い学びへ向けての授業改善に取り組む。	新しい学びについて、教職員で研修する機会を多く設けた。	《100%》	A (3.7)	
生徒指導	保：学校は心の教育の充実、いじめ防止に向けた取組をしている。	学校生活アンケートや教育相談を計画的に実施することで、保護者の高い評価を得た。問題が起きたときはケース会議を開き対応した。	《91%》	B (3.3)	児童の「いじめをしない」の評価が高いことは、教職員の「個に対応した丁寧な指導・相談」など、担任等の不断の指導が身に付いているように考える。 一方で、高い評価ではあるが、保護者の「心の教育・いじめ防止」の評価が上がるよう学校の取組を強化するとともに、家庭との連携を更に深めていく必要がある。
	保：子供は時と場に応じた挨拶ができる。	児童会の挨拶運動を実施すること、担任等の指導や教職員自らの実践により、前後期とも高い評価になった。	《90%》	B (3.4)	
	児：友達 をいじめたり、見 ぬふりをしたりしない。	学校生活アンケートや教育相談など、適切な指導を行った結果、望むべき児童の行動につながった。	《95%》	A (3.7)	
	児：明 るい挨拶（学校 や近所）をする。	明るい学校にするための児童会の挨拶運動など、児童自ら明るく元気な挨拶を広めたが、評価値は、昨年度から０．２低下した。	《86%》	B(3.4)	
	職：生徒指導の機能を生かした授業に努めている。	生徒指導上の課題をチームで考え、日々の授業実践に生かしている。	《100%》	B(3.5)	
	職：児童一人一人の児童に寄り添い、丁寧な指導や相談を行っている。	問題の早期発見・迅速対応に徹し、丁寧な生徒指導を全校体制で行った。	《100%》	A (3.6)	
特別支援教育	保：学校は児童個々の多様性を認め、個別の支援を実践している。	特別支援教育コーディネーターを中心に、全校体制で支援を実践した。昨年度から比較して、肯定的評価が４ポイント上昇した。	《91%》	B (3.3)	児童の「友達に優しく接する」の評価に安心することなく、児童の多様性や個性を認め、常に大切にしていく指導を心掛け、保護者の更なる理解を深めていく。
	児：困っている友達に優しく接することができる。	高学年が低学年の面倒を自然に見るような温かい雰囲気があるので高い評価であったが、昨年度から比べると評価値が０．２低下した。	《92%》	B(3.5)	
	職：特別に配慮を要する児童について、共通理解を図り指導を行う。	教育支援委員会を随時開催し、個に応じた対応について共通理解を図り、適切な指導を行った。	《100%》	A (3.6)	
各種教育	保：学校は勤労観・職業観を育てるキャリア教育を実践している。	校外学習や外部講師を招き、キャリア教育の実践を年間を通して実践した。	《94%》	B (3.3)	児童、保護者、教職員において、各種教育（キャリア教育・読書教育・ＩＣＴ教育・国際教育等）の評価を向上させることが、今後必要になる。それぞれの全体計画に基づいた継続的な指導実践を充実させていく。 ICT教育に関しては取組が向上した。
	児：読書に進んで取り組む。	親子読書活動など取り入れたが、児童・保護者の読書活動への意識は、大きな差があるので、学校として更なる工夫が必要である。	《72%》	C(3.0)	
	職：キャリア教育の推進に努めている。（勤労観、職業観の形成）	キャリア教育の全体計画の基、指導実践を行ったが、学年単位で進めていくことを考えると更なる工夫が必要である。	《88%》	B (3.2)	
	職：視聴覚教材や各種教育機器を活用したICT教育を実践している。	タブレット端末の使用頻度が向上し、ＩＣＴ教育の重要性を大いに認識している。ICT支援員の協力の下、教職員の意識向上が見られた。	《100%》	A (3.6)	
保健教育 安全管理	保：学校は感染症対策等、健康・安全指導の充実に努めている。	養護教諭を中心に感染症対策を全校体制で徹底し、昨年度同様、年間を通じて安全・安心に学校運営を実践することができた。	《96%》	B (3.5)	養護教諭を中心に児童及び保護者については、学校の感染症対策への認識が浸透した。 教職員は、安全点検等の危機管理の面で高い評価を示した。来年度もその意識を継続させ、「安全・安心」の理念を貫いていく。
	児：自分 や友達 、全体 のことを考 え安全 に行動 した。	安全・安心な学校生活に向けての意識の向上が見られた。昨年度の比較で、肯定的教評価が６ポイント上昇した。	《96%》	A (3.6)	
	職：危険等発生時対応マニュアルを理解し活用している。	地震・火災・不審者侵入などを想定した避難訓練を通し、危機管理意識の向上が図れた。	《100%》	B (3.5)	
	職：安全点検を徹底し、安全に関する日常的な指導をしている。	昨年度から実践している複数かつローテーション方式での安全点検を行うことで、児童への安全指導が充実した。	《100%》	A (3.8)	
保護者連携 地域連携	保：学校と保護者は、信頼関係を築けている。	学校経営の要である学校・家庭間の「信頼関係」については、教職員の日々の教育実践により、肯定的評価が２ポイント上がった。	《92%》	B (3.3)	教職員は「信頼」を合い言葉に、学校経営及び学級経営に尽力してきた。その成果が徐々に表れ、保護者の後期評価は、前期より向上した。 しかしながら、まだ連携強化の余地はある。来年度も尽力していく。地域連携では、コミュニティスクールを念頭に進めていく。
	保：学校は、保護者からの連絡や相談に丁寧・誠実に対応している。	各担任や管理職が保護者からの相談等に誠実に対応した結果、昨年度との比較で、肯定的評価が２ポイント上昇した。	《97%》	B (3.5)	
	保：地域は、学校の教育活動に協力している。	コロナ禍から平常な状況に移行したことで、少しずつ地域の協力体制が整いつつある。CSに向けて学校からの働き掛けが不可欠である。	《91%》	B (3.2)	
	職：早期及び即時対応を心掛け、保護者との連携を図っている。	テトルや連絡帳を活用し、担任から管理職への報・連絡・相が徹底し、保護者との連携が十分に取れていた。るようになった。	《100%》	A (3.6)	
	職：学年便りなどを通し、児童の様子を積極的に家庭に伝えている。	各担任の工夫ある学年便り（テトル配信）により、保護者とのパイプが太くなってきた感が見られる。	《100%》	B (3.3)	

4　評価結果の分析

○　学校教育目標、学校教育の理念及び方針が２年目を迎え、教職員一人一人が積極的に学校経営に参画することで、「明るく活気がある学校」を創り上げることができた。
○　保護者からは、学校運営に対しおおむね満足できる評価をいただいた。これに甘えることなく、否定的評価をいただいた保護者の声に傾聴し、真摯・丁寧・適切に経営を推進する。
○　「ふるさと学習」は市の教育の柱でもあるので、鶴巻小として持続可能な範囲で教育課程に位置付け、令和６年は、既存の内容を含め更なる教育実践を推進していく。